

四天王寺さんめい苑

今年で26年目となる障害者活動センターにおいて、開設時から様々な変節があつて現在に至っているが、いま一度これまでの経緯を見つめ直し、現状との比較、そこから『今あるべき姿』をスタッフ全員で模索していく機会を設け、『ゼロベース・フルオープンさんめい苑』を今年度のスローガンとして掲げる。

その中において、さんめい苑のスタッフが共有する価値観をしっかりと持ち合わせ、専門性を高める活動に注力して進む一年としたい。

～具体的な事業活動～

(1) 様々な視点から『今』を見つめ直す機会の創造

各事業の特性を理解した上で現在の状況をモニターし、コロナ禍での変化や、それに付随しすぎているような面はないか、また慣例化されたことがいまも最適か、など様々な観点を内外から見つめ直す機会を設け、今にあった最適を検討する。

(2) 考察・仮説・実践・検証へのチャレンジ

コミュニケーションこそ私たちの仕事の最重要課題であり、同時に最難関でもある。慣れや経験からの憶測に頼らず、あらゆる観点からご利用者本人の意思を探るためのチャレンジを実践していく。そのために考察・仮説・実践・検証を具体的に組みつつ、ご家族様や関係者との関わりを深め、より内容の深い個別支援計画につなげる。

(3) 施設の機能整備、地域との関係作り

経年劣化もある施設内を、機能を損なうことのないよう整備すること。また、見慣れた施設環境が、より効果的に機能できる余地はないかを検討し、環境とその機能を高めたい。近隣との交流を、さんめい苑自らが発信する機会からスタートし、この立地にある福祉施設が、地域に貢献できる機会を創りたい。

～改善活動～

(1) 安全への取組・環境改善

施設内における事故・環境改善等の取組を継続し、サービスを安全に提供できることを第一として取り組む。またご利用者にとってはもちろんのこと、スタッフにとっても職場環境がより良くなるための改善を実践する。

(2) 取組内容の整理、区分、明確化

施設行事、グループ行事、個別活動等の細やかな対応をしている中で、スタッフ自身の関わり濃淡による連携不足を解消し、『わかりやすく、しっかり周知共有すること』ができるような機能を再構築する。

(3) スタッフの『個』の能力アップに資する人財育成

一人一人の得手不得手も踏まえ、活かす人財育成を実践する。仕事の楽しさを実感することを併せ持たせた育成を考え、業務実践の中での成長を促す。